

親子のふれあいと

勝利へのこだわり

カチガわ小学生・親子

ふれあいティール大会

久保寺千広

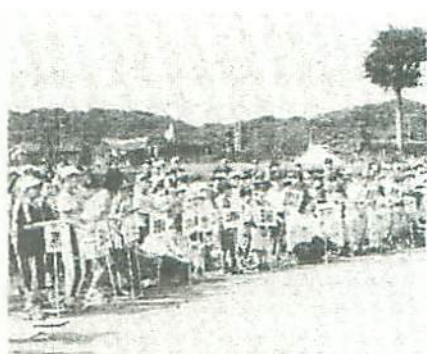
七月二十日(海の日)に、「第二回かながわ小学生・親子ふれあいティール大会」を厚木市の及川球技場で開催した。

主催は日本ティール協会神奈川県連盟(筆者は連盟の小学生普及委員)、神奈川県と厚木市の教育委員会の後援を得た。

当日は一日じゅう三十度を越える猛暑の中、県内の小学生親子四十七チーム約七百人が参加した。

昨年から始めたこの大会は、「小学生の部」と「親子ふれあいの部」に分かれている。

「小学生の部」の目玉は、上位の二チームに「全国小学生ティール選手権大会」(八月に西武ドームで開催)への神奈川県代表権が与えられること。生涯スポーツであるティールに、競技スポーツとしての側面を持たせてみたところ、西武ドームをめざして、少年野球チームも数多く出場してきた。



勝敗にこだわって、レベルの高いプレーが続出。反面、スポーツ指導者がありがちな、熱くなつての審判への抗議、ブレイヤーへの怒声など、ティールには不似合わない場面もたびたびあった。

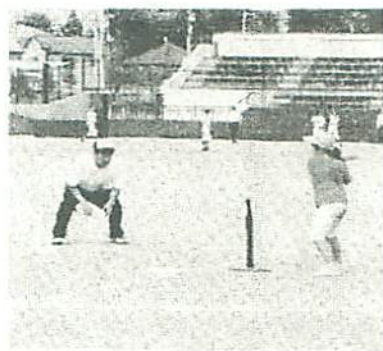
「もつと楽しくティールをやつてほしいな」と苦笑いしながらも、少年野球チームがこんなに真剣にティールに取り組んでいる姿にも嬉しいものがあった。

もう一つの「親子ふれあいの部」は、安心して見ていられた。先程、生涯スポーツと紹介したが、老若男女を問わずに楽しめるのがティールのよさ。昨年、土曜授業参観で「親子ふれあいティール」を行い、たくさんのお父さん

が参加してくれた。お父さんの活躍で、父親の権威復活とともに、学校と父親の距離もぐつと近くなった。(本誌五月号で紹介)

大会では、本塁手と一塁手、外野手(一人)に大人が入るルールにしたところ、ゲームとしてのしまりも出てきた。ティール本来の楽しさが満喫できる大会になった。

さて、私がティールで学級経営をしてきたことを五月号で書いたが、その子たちは現在三年生(今年は担任ではないが)。昨年の大会では、参加することにこそ意味があるという段階で結果としては散々だったが、今年は大いにレベルアップ。少年野球チームも寄せ付けない強さで三連勝。見事



に「親子ふれあい低学年の部」で優勝した。

日本ティール協会推薦として西武ドームの全国大会にも出場できることが決まり、この夏休みは勝敗にこだわったティールも味わえることになった。

昼休みには、子どもたちの夢「プロ野球OB」の鈴木恵夫氏(元日本ハム・ロッテコーチ)によるバッティング教室が開かれ、子どもたちに丁寧な指導してくれた。

今、全国各地で同様のティール大会が開かれている。ティールに注目を。まだ経験のない人は、ぜひ体験を。

〈神奈川県・大井町立大井小学校〉